

タイトル：『汐製菓会社の新作70キヤ  
ラメル5』

## 登場人物

- ・ 汐（しお）…（30代）

汐製菓会社の社長。「面白きことも無  
き世を面白く」をモットーに、奇想天外  
な菓子を発案し続ける天才。快活で明  
るい性格、誰にも止められない。

- ・ 塩田（しおだ）…（30代）

汐の秘書。几帳面で真面目だが、毎回  
社長の無茶なアイデアに振り回され  
る。実はお菓子大好きで、その情熱で  
製菓会社に就職したが、最近はやが痛  
い日々。

## あらすじ

汐製菓の社長・汐は、新作キャラメルを開発中。今年のテーマは「挑戦」。突拍子もないアイデアで、なんと「山菜味のキャラメル」を発案。

驚愕する秘書の塩田は反対するが、汐は「これが世界を変える」と自信満々。社内で味見会を開き、外国の展示会でも勝負に出るが、予想外の結果に。

## 第一幕…山菜キャラメルの誕生

（場面…汐のオフィス。机の上にはキャラメルの試作品がずらりと並べられている。汐は試作品を一つ手に取りながら、うれしそうに眺めている）

汐…（大きさに手を広げながら）「ついにできたぞ、塩田くん！今年も我が社の革命的キャラメルが世に出る！」

塩田…（書類を片手に、半ばあきれた顔で）  
「またですか、社長…。毎回斬新すぎて、胃が痛くなるんですね。」

汐…（笑いながら）「それが面白いんだろう！  
今年の新作キャラメルのテーマは…『挑  
戦』！」

塩田…「挑戦…ですか？（一抹の不安を感じ  
つつ）で、何味ですか？」

汐…「これだよ！見ろ！」（試作品を一つ手  
に取り、塩田に差し出す）

塩田…「…：…なんだか、普通のキャラメルに見  
えますけど？」

汐…「甘いな、塩田くん！これがただのキャラ  
メルだと思ったら大間違いだ。今回は…『山  
菜味』だ！」

塩田…（思わず書類を落とす）「や、山菜…：…いやいやいや、社長、それってキャラメルの味として成立するんですか？」

汐…（自信満々）「もちろんさ！甘さと苦さが絶妙に混ざり合い、まさに自然の恵みが詰まった一品だ！」

塩田…「山菜のキャラメルって…誰が食べるんですか？いや、冗談抜きで…ターゲット層はどこですか？」

汐…（真剣な顔で）「ターゲットは全人類だよ、塩田くん。」

塩田…「はあ…。（ため息をつきながら）そうですか。まさか全人類に挑戦するつもりですか…」

（汐は塩田に試作品を差し出す）

汐…「百聞は一見にしかず、塩田くん。まずは食べてみてくれ。」

（塩田、渋々キャラメルを受け取り、恐る恐る口に入れる）

塩田…（顔をしかめながら）「うっ…！ 苦い…。そして…なんか土の味がするんですけど…！」

汐…（得意げに）「それがいいんだよ！ まさに山の恵み！ 土の香り！ これは新感覚だぞ！」

塩田…「これ、売れますかね…？ まあ、社内の反応を見てからですね。」

---

### 第2幕…社内味見会 大混乱！

（場面…汐製菓の会議室。社員たちが集まり、試作品のキャラメルを前にしている。汐は笑顔で社員たちを見回しながら、手に持ったキャラメルを高々と掲げる）

汐：「さあ、みんな！これが我が社の新作『山菜キャラメル』だ！」

（社員たちは一斉にざわつく）

社員△：「社長…山菜って本当に…キャラメルですか？また変なこと始めました？」

社員□：「今年の『わさびキャラメル』もなかなかハードでしたけど、これは…」

社員○：「いやいや、これは面白いつて言うより…」

汐：「心配するな！これは世界を変える一品なんだ！さあ、みんな、食べてみてくれ！」

（社員たちが渋々キャラメルを手に取り、一斉に口に入れる。瞬間、みんなの顔が苦しげに歪む）

社員△：「うっ…これは…！」

社員 田：「すみません、ちょっと苦味が強すぎ  
ませんか？」

社員 〇：「これはキャラメルっていうより…山の  
土そのものじゃないですか？」

汐：（満足げにうなずきながら）「そうだろ  
う！まさにそれが狙いだ！山の味わい、自然  
の力をそのままキャラメルに詰め込んだん  
だ！」

社員 乙：「でも、これ…子どもが食べたら泣き  
ませんか？」

社員 田：「いや、大人でもちよつと厳しいです  
…」

塩田：（社員たちを見てフォローしようとして）  
「あの、これはまだ試作品ですので…最終版  
ではもつと改良がされる予定です！ですよ  
ね、社長？」

汐：「改良？そんなものは必要ない！これで完成だ！」

社員O：「これで完成…？（驚愕の表情）」

塩田：（心の中で）「…さすがに、これはちよつと…」

---

### 第3幕：海外展示会へ！挑戦の始まり

（場面：海外の菓子見本市。汐製菓のブースに大きく掲げられた「Wind Mountain Flavor Caramel」の看板。汐は自信满满で、塩田は不安そうにブースを見渡している）

汐：「さあ、塩田くん！これから我々のキャラメルが世界中に広がるんだ！山菜キャラメルがいよいよデビューだぞ！」

塩田：「本当に大丈夫なんですか…？海外の人たちに受け入れられるかどうか…」



(アメリカ人バイヤーがブースに近づいてくる)

バイヤーA:「フット イズ デイス?」

汐:「It's a revolutionary new flavor! Wild Mountain Flavor Caramel!」

塩田:「あ、えっと、山菜味のキャラメルです

…」

(バイヤーA、怪訝そうな顔をしながらキャラメルを口に入れる)

バイヤーA:「…これは…とても独特な味だ…でも、嫌いじゃないな。」

(続いて、フランス人バイヤーがブースに近づく)

バイヤーB:「ケセクサ? (これは何ですか?)」

塩田:「…山の自然の味がするキャラメルです…」

(バイヤーBも一口食べる)

バイヤーB:「トレビアン!!(素晴らしい!!)

これは他にはない味だ!」

塩田:(驚いて)「あれ、意外と好評です

…?」

汐:「だから言っただろう!世界はまだこの味を知らないだけなんだ!我々のキャラメルがいよいよ国際市場に進出だ!」

---

### 第㊦幕: 大注文!そして驚愕の結末

(場面: オフィスに戻った二人。汐は自信満々で、塩田はまだ半信半疑の表情)

汐:「見たか、塩田くん!やっぱり俺の目に狂いはなかった!みんな山菜キャラメルに夢中だった!」

塩田…「確かに…興味を持ってくれた人もいましたけど、これが本当にヒットするかどうかは…」

（突然、電話が鳴る）

汐…「汐製菓です。…え！？大量注文ですか！？山菜キャラメルが！？…ありがとうございます！」「  
ざいます！」

塩田…「え、本当に注文が？どこからですか？」

汐…「海外からだ！すごいぞ、ついに我々のキャラメルが世界に広がるんだ！」

（汐は大喜びで跳び跳ねるが、塩田が届いたメールを確認）

塩田…（驚愕の声で）「…え？『山菜キャラメル、大量注文。ただし、園芸用肥料として』…って書いてありますよ！？」

汐：「な、なんだって！？肥料……！」

（汐、しばし呆然とするが、すぐに笑い出す）

汐：「まあ、いいじゃないか！結局、面白ければ何でも成功だ！俺たちはやり遂げたんだよ！」

塩田：「いや、それって成功ですか……？」

（汐、満足そうに笑い続ける。塩田は頭を抱え、またも社長の暴走に巻き込まれる）

---

## 結末

山菜キャラメルは「お菓子」としての成功はしなかったが、なぜか園芸業界で「天然肥料」として大ヒット。汐は次なる奇想天外なアイデアに向けて再び動き出し、塩田はまたもや社長の無茶ぶりに付き合わされることになる。

終わり

---